

佐野明彦さん追悼句

驟雨また自他に真直ぐな詩友逝き
亡きひとの詩論読みつぎ夜短か

万里子

追憶は友の慈顔や五月雨

全

逢ひたくも友偲ぶのみ夏嵐

恭延

神様と慕はれし友夏に逝く

全

卯の花や畏友明彦先に逝く

天牛

花の湯に共に浸りしひと逝きぬ

正明

謡曲を愛せしひとや杜若かきつばた

全

春あらし江口の里に逝きし畏友きみ

堅

花降る夜笑顔とワイン北野坂

市橋伸彦

北野で飲む約束空しほととぎすむな

紀久男

気配りの句の友逝くや百合匂ふ

全

友偲ぶ冷酒ひやほどほどに前向きに

全

遺句三十八句

平成十七年十二月青葉会入会以来の年代順（出席は二回のみ）◎印は高得点句。紀久男抄出

◎ロゴスよしエロスまたよしおでん酒

◎香立つ柚雑炊の京の宿

◎露地裏の盆栽棚も若葉かな

◎名刹の精進料理若葉風

◎おいでやす今夜は鱧の洗ひどす

◎世事疎し計算暗し梅雨深し

◎夏座敷たちまち児らの運動場

◎青竹の菜箸添へて夏料理

◎つくばいの水呑む猫や秋暑し

◎竹箒に笹の葉敷いて衣被

◎名人は餓鬼大将なり木の実独楽

◎読初や明窓浄几なけれど

◎着ぶくれて隣の犬に吠えられて

◎韓流の店を探して薬喰

◎いづくへも行くあてなくて冬の雨

◎春塵の巷のナンパコンパかな

◎花粉症からす天狗のいでたちにて

◎したたかに女系三代古雛

◎異人館石垣つたふ秋の蛇

〔略歴〕 昭和七年生

昭和三十一年神戸大学卒業後丸紅入社（運保部）

財務経理中心の管理部門

関連事業部（ソウル、ダラス駐在も）

昭和六十三年 退社

平成二十二年五月十六日逝去。

享年七十七歳

◎地震跡（なみあと）や瓦礫の下のきりぎりす

◎熱爛や管（くだ）を巻いたり零（こぼ）したり

◎古寝巻着たまま年の改まる

◎花粉症なぐさめ合ひて別れけり

◎納骨の読経の声や若葉雨

◎法然の教へのままに昼寝する

◎隣人はシングルマザー桜桃忌

◎ワイン好きステーキも好き生身魂

◎秋の灯やふとたこ焼きのほしくなり

◎つくばいの水浴びてをり初雀

◎恋猫の縁の下借るデートかな

◎胃全摘よんどころなき梅雨ごもり

◎元教師声の大きな生身魂

◎瀬祭忌今夜は何を食べやうか

◎歎異抄繙いてをり神の留守

◎義仲寺の廂（ひさし）を借りる時雨かな

◎あても無きバレンタインも過ぎにけり

◎謡本かすみて読めず梅若忌

◎春なかば壺中天地の主逝けり